

36号、37号では、関東教区内にある「東日本大震災」で被災した教会・伝道所の今とこれからの課題を報告いたします。どうぞ、皆さまの日々の祈りの課題に覚えてください。

## 「安中教会・現状と課題」

安中教会 江守 秀夫

1918年築の現会堂は東日本大震災により内壁に剥がれと小亀裂等が生じ、昨年10～11月に全面を剥離して元の色合いに砂壁を塗り直すという修復をいたしました。本来は京都の嵯峨野産のパウダー状のきめ細かな砂を素材にして塗られていたということですが、さすがに予算的にもそのような修理をする実力もなく近隣で入手可能な細かい砂を使って修復しました。

又、外壁の大谷石に至っては「老朽化」と相まって震災が拍車をかけるように石積み浸食だけではない「ゆがみ」を生みだし、それが雨漏りを誘発していることも事実です。これらを全面的に修理するには新会堂建築並の経済的負担がのしかかるため実質的には不可能に近いというのが現状でしょうか。いずれにいたしましても今後の課題としてこのハードの側面への早急な対応が迫られている事実には代わりが無く、課題の抜本的解決にはまだまだといったところです。

## 鹿島教会の現在と今後

鹿島教会 久保田 愛策

東日本大震災とその後無数に襲った余震の影響で鹿島教会は、大きな被害こそありませんでしたが、建物(会堂・牧師館・幼稚園舎が一体となった建物)に多くの亀裂ができ、また幼稚園の庭も崖沿いに沿って地割れを起こしました。建物は耐震補強工事をしましたが、園庭は原状復帰が難しく、地割れした部分に園児が立ち入らないようにフェンスを建てました。したがって園庭は以前よりも狭くなりました。表向きは変わらない日常に戻りましたが、今も放射能の不安が完全に払しょくされたわけではありません。

実は鹿島教会では震災前から新会堂建築の計画がありました。エレベータなしの2階の会堂での礼拝に集えない高齢者が増え、木造平屋建ての会堂を求めたのです。多くの教会員が被災し、震災後の総会で会堂建築は延期になるかと思いましたが、「今やらなければならない」という総意で会堂建築プロジェクトは続行されることになりました。現会堂の道路を挟んで向かいにある、14年前に購入したエマオ館(現在はCSや祈祷会等で利用している)を解体し、そこに建設予定です。9月着工の来年4月に完成予定です。覚えてお祈りいただければ幸いです。

## あなたの重荷を主に委ねよ、主はあなたを支えられる

水戸中央教会 山本 隆久

私たちの教会は礼拝堂、集会室、牧師館一体型の建物でした。半壊し、関東教区と相談した結果、取り壊して再建することになりました。二次被害の危険がある牧師館と集会室部分は昨年 7 月に取り壊しました。鉄骨のしっかりした建物でしたので、半分壊すだけで 800 万円かかりました。

建物の残存部分に簡易補修をして、礼拝などの集会を今は守っています。牧師家族は隣の賃貸マンションに教区の支援で住んでいます。住宅は被災後 3 年以内に再建すると国の補助金があるので、間に合わせたいと考えています。

現在、敷地奥にある礼拝堂を、入りやすいように敷地前部に再建しようと決めました。以前から計画していた納骨堂は、水戸市の条例が改正され、今年 7 月からは近隣住民の承諾が不要となり、神に感謝しています。

信徒の住宅も被災しています。

今春に入り、ようやく修復工事の順番が回ってきた状態です。2010 年にそれまでの積立金を全て使って大改修を行った後、被災しましたので、自己資金を増やすべく努めているところです。皆様のお祈りとご支援を感謝します。



## 泉町教会の報告

泉町教会 佐藤 泉

昨年の大地震でわずかながら影響があったらしく、教区より派遣された松下兄の簡易診断では、若干の被害との判定でした。教会堂の壁のひび割れや天井材の剥離など地震前より認められていましたが、そのような箇所にあの大きな揺れによる被害の広がりがあるだろうとのお話しでした。礼拝等を守るのに支障はないとのことで、その点では幸いでしたが、放置してはいけないので、修繕を勧められました。

実は、地震が起きる前より整備事業を考えていたので、その整備計画の枠内で、地震の影響のことも少し意識しながら点検や修繕を進めていこうとしています。早急に修繕しなくてはならない程に悪い状況ではないと言われていたこともあり、整備はあまり進んでいませんが、昨年は、天井材の剥離の点検と修繕を、ビル管理をお仕事にしている教会員数名の御奉仕により実施できました。時間のかかる高所での作業でしたが、丁寧な点検・修繕を行ってもらい、感謝でした。

今後は壁や屋根の点検と修繕を実施したいと思っています。覚えて、お祈り頂ければ幸いです。

## 「恐れるな、小さな群れよ」

水戸自由ヶ丘教会 西上 信義

2011年3月11日（金）東関東大震災によって、水戸の町はとても深く揺れました。古い建物が半壊し、屋根が崩れ、近代的なビルも内部が崩れました。私たちの水戸自由ヶ丘教会は礼拝堂と牧師館の屋根は「ぐし」が崩れそうになっていました。内外壁に亀裂が入りました。下水施設も壊れていました。翌日、加藤地区長、現久保田地区長がお見舞いくださいました。調査をして頂くと、礼拝堂の内壁にひびが入り、天井がひずみ、外壁が危険な状態でした。その日から、教区144の教会伝道所の祈りと励ましに深く支えられました。8月に入って、やっと、礼拝堂（18坪）と牧師館（10坪）の補修工事が地元の西山工務店によって始められました。教会員（9名）と教区関係者の方々の献金と教団共済組合のお見舞い金、関東教区と教団の方々の支援により、12月はじめに被災復興がなされました。小さな群れの教会ですが、神さまの慰めと愛の聖霊が生きて働いてくださったと感謝しています。2012年1月22日（日）午後4時被災復興礼拝には、教区と地区の教会伝道所の方々42名もおいでください、大きな祈りと賛美と励ましをくださいました。

「神さまは希望と愛の御国をくださいます。」

復興なった水戸自由ヶ丘教会は、水戸市内の50号線のバス停の前に立てられています。私たちの教会の使命は、主日礼拝を守り、相互牧会をしながら、「人間性の回復」の慰めの教会になることです。一人一人が、新しい友に伝道します。そして、昼も夜も水戸の町の「福音の灯台」として、光をあらわしていきたいと祈ります。どうぞ、慰めと喜びの教会へおいでください。

## 宇都宮教会の近況報告

宇都宮教会 木村太郎

東日本大震災による教会堂被災に際して、地震直後からお祈りいただき、またお見舞いや献金を通して、私共を覚えお支えくださいましたこと、ここに改めて深い感謝を申し上げます。

宇都宮教会は、この被災を通して、祈りつつ話し合いの時を重ね、昨年（2011年10月9日）開催されました臨時総会において、新教会堂建築の決意をし、建築委員会を立ち上げました。

以後、長老会、建築委員会を中心に、教会視察、設計者の選定、教会全体懇談会、そして資金計画についてのアンケート実施等を行なってまいりました。5月8日（火）には、第7回建築委員会が開催され、5月下旬には、設計者から一番最初の設計図が示される予定となりました。

新教会堂の着工時期等、具体的な日程については、まだ未定ではありますが、少しずつ前進しております。さらに祈りを熱くし、主なる神さまが成し遂げてくださる業を信頼していきたいと思えます。どうぞ今後ともご加禱のほど、よろしく願い申し上げます。

## 勝田教会、震災後の現状と課題

勝田教会 鈴木 光

勝田教会は震災直後に被害状況を確認した所、壁の亀裂や棚などの用具が破損するなどの多数の細かい被害を見つけました。礼拝堂正面の壁の亀裂などは、早い段階で修理をし、逆に危険なく目立たない所、たとえば十字架塔につけられた避雷針が曲がってしまった状態なのは、見栄えの問題はありますが機能的な問題はないことからそのままにしております。いつか、と思いながらなかなか手をつけられない現状です。

茨城北部としては、比較的小さな被害ですんだことを主に感謝しております。ただし、一年が過ぎて、あらためて見てみますと附属の保育園施設などで、床や出入口の亀裂や段差が広がってしまったり、排水口のマンホール部分が地面の変動で上にせり出してしまったりと、時間が経過してから出て来た被害などが目につきます。

また、信徒宅でも複数、大小様々な被害が出ました。それぞれに祈りつつ、向き合っておられます。

皆さんの支援とお祈りに感謝いたします。続けてお祈りください。

## 西那須野教会の報告

西那須野教会 菅野 勝之

3月11日、西那須野教会はガシャガシャと激しい音をたてながら目の前で揺れました。あの音がまだ耳から離れません。礼拝堂の内壁は傾き、教会の塔の内側の壁に亀裂が入り、パイプオルガンのパイプはバラバラに倒れ、折れ曲がりました。母子室の天井は落下し、什器、備品はひっくり返り、壊れて散乱しました。

この会堂が安全なのかどうかを確認することから、復旧に向けての歩みが始まりました。それから3カ月後、会堂部分の修理が終了して、6月19日から、再び礼拝堂で主日礼拝ができるようになりました。主の助けと、たくさんの方々の祈りと貴いご献金やお見舞いをいただき、励ましとお支えをいただいて、復旧できたことを心から感謝いたします。

今なお栃木県北地域は、放射線の心配があります。私共と深い関わりのあるアジア学院も大変な被害を受けました。西那須野幼稚園は放射線対策を続けています。引き続きお祈りをお願い致します。

